

んなが助け合えりよりになつて、それがまた
違ふ人に察がつて大きな輪になるだろ。し
かし、これは簡単にできることなのだろか。
私の場合、困つていそやかな人がいても助けた
いとはもちろん思うけど、行動に移すことは
勇気があらず、なかなかできなかつた。もし迷
惑になつてしまつたら……。などと考え始める
ときりがなくなつてしまふからだ。このよくな
な、気づいてあげるといふ「優しさ」はたく
さんあるだろ。だが、それを行動に移して
目に見える形になつていゝものほとも少な
いと思ふ。だから私は少しでも目に見える形
の「優しさ」を増やしたいと思ひ、今までよ
りも少し周りをよく見ながら生活するように
した。すると、ある日友達と電車に乗つてい
るときに赤ちやんを抱子した女性が電車に乗
つてきた。席は空いておらず立つていた。私
達は声をかけるまで勇氣は出なかつたが、
席を離れてちやんがうとこりに移動した。その女
性は私達が座つていた席に座つてくわたりだ。

その女性が私達が席から離れたことに気づいたかは分からないが、こわも立派な「優しさ」と言っているいいのではないか。そして、女性が席に座ってくれて私はとても嬉しい気持ちになっただけ。

行動に移すことはとても難しいが、水ができたとき嬉しさはとも大きなものだと私は思う。誰かが重い荷物を持っていったら、手伝わなくてあげる、自転車をもらった人が信号を渡るのを大変そうにしていったら、表と声かけてあげるなど、の優しいさし、が住民サービスなだけではないか。このよくな師け合いの姿がまちで自然に見かけられるように私達ですべていきたいと考えた。頼れる住民サービス、どんどん大まな輪にしていくうではないか！